

B I A C
I D
C
I O

自然素材の力をカタチにするパイオニア



備前化成株式会社

BIZEN CHEMICAL CO., LTD.

About us 備前化成について

ビタミンEを日本の食生活に提案した備前化成は、創業時より健康食品のパイオニアとして実績を積んできました。常に自然素材にこだわり、確かな技術力と高い品質力で独自素材を生み、お客様と共に多くの製品を創り続けています。また、高度な抽出・精製技術を医療用医薬品にも活かし成長してきました。これからも研究開発から製造まで、自然素材から最終製品までの一貫体制のもと、世の中になく新しいものづくりを追求し、自然と健康の喜びを届け続けていきます。

経営ビジョン

自然の力とテクノロジーでお客様に感動と喜びを

ミッション

独創的な技術で新たな価値を創造し、人々の健康を支える

社訓

自分で考え、自分で創り、自分で売る

経営理念

常に一步先一步上をめざして

1. 「誠実」で「責任」ある企業人である
2. 「顧客」「個人」「チーム」を大切にする
3. 「自然と健康の喜び」をより多くの人々へ提供する

Logo

ロゴマークの由来



備前化成の英語表記“BIZEN CHEMICAL”の頭文字BとCを楕円形の中にシンプルにデザイン化し、また全体的にはアルファベットのEを表しています。これは当社の創業時の主力商品が天然ビタミンEであり、その形態が軟カプセル(楕円形)であることに由来しています。全体からうける流線形は、どのような時代の流れにも抵抗なく機敏に対応でき、未来に飛翔する社風をイメージしています。

自然素材の力をカタチにするパイオニア



代表取締役社長
清水富江

備前化成が1971年創業以来受け継いでいることは、自然素材、自然の力を活かした製品づくりです。創業者である父は、戦争によるシベリア抑留の経験があり、その時に健康的に生きることの大切さを痛感したそうです。その後、“人々の健康に役立つ食品を作りたい”想いに駆られて、渡米して健康食品について学びました。当時、日本には健康食品がなかった頃で、1975年に製品化した天然ビタミンE配合の栄養補助食品が大きな話題となり、健康食品のパイオニアとしての道を歩き始めました。現在、健康食品分野をはじめ、医薬品の分野まで事業の領域は広がり、最近では、青魚に含まれるDHAやEPAなど“オメガ3”と呼ばれる脂肪酸を製造する

油脂事業にも力を入れるなど、多様な製品、特に医療分野での生産供給に貢献しています。

備前化成の強みは、素材原料の開発から生産加工、パッケージングまで、全てを自社で賄える点です。お客様のご要望に柔軟に対応できる体制面もありますが、むしろ、最初から最後まで自分たちが作ったものに責任を持ちたい想いがあるからです。自信が持てる品質こそが、お客様との信頼を高めて、会社のブランドを支えてくれています。

お客様とこれまで育んできた信頼関係を大事にしながら、これからも“備前”の地にこだわって世界品質を発信していきたいと思えます。

総合的な満足づくり

備前化成は世の中になかったものづくりをますます進化させ、研究開発から生まれる新しい価値創造を追求しています。自然素材の優しさや安心感、お客様との協働、備前地域の自然豊かな環境など備前化成流のホスピタリティを十二分に発揮し、単なるものづくりではなく、“総合的な満足づくり・価値づくり”を目指していきます。



カタチづくり

創業以来の「パイオニア」精神、「実績」に裏打ちされた自信、「確かな技術力と高い品質力」、「お客様と共に」つくる、「一貫体制」、これらが備前化成の「カタチにする」ための力です。自然素材が持つ目に見えない秘められた効能を人が摂取できるようになるという意味での「カタチ」を創っていきます。



お客様と協働で

先駆的に開発したビタミンE剤を自ら提案し、お客様の声にも真摯に耳を傾けて成就させてきたという成功体験が脈々と受け継がれていることにより、これまで多くのお客様に備前化成ならではの自然素材や技術を活用いただけてきました。お客様のあらゆるご要望をしっかりと“聞き”、それに対して備前化成の“お役立ち”の場面を常に考えています。



環境保全・社会貢献活動への取り組み

備前化成では、瀬戸内海の厳しい排水基準を満たし、太陽光発電システムの導入や照明のLED化など省エネルギー推進委員会を中心とした省エネ活動を推進し、環境保全に努めています。またメセナ活動(社会貢献活動)として、地元サッカーチーム「ファジアーノ岡山」、バレーボールチーム「岡山シーガルズ」、バスケットボールチーム「トライフープ岡山」、卓球チーム「岡山リベッツ」を応援しています。



©2017 F.O.S.C

History 沿革

創業初期の会社全景

50年以上の 実績と信頼

備前化成株式会社は、日本でサプリメントと言う言葉が定着する前の時代から、サプリメントメーカーのパイオニアとして歩んできました。

備前化成はビタミンEと サプリメントのパイオニア

創業者の石原隆文は、戦争によるシベリア抑留の経験があり、その時に健康的に生きることの大切さを痛感しました。その後、“人々の健康に役立つ食品を作りたい”想いが膨らみ、健康食品の製造販売へと想いをつないでいきました。

1964年、石原隆文は大豆のはい芽から抽出するビタミンEの製造ノウハウ、権利を譲り受け、ビタミン市場の将来性を見込み、三和薬品工業(備前化成の前身)を創業しました。

当初(1960年代)は即席麺の『酸化防止剤』として天然ビタミンEが大ヒットしました。その後、開発したビタミンEを動物用医薬品として米国へ持って行った際に、カプセル型サプリメントに出会ったことがきっかけで、ビタミンE剤を日本初のカプセル状のサプリメントにすることを決意しました。

1971年、天然ビタミンEの需要が急増したことを受け備前化成を創業し、本格生産を開始しました。

1975年に『ビタポールE』を発売。当時のビタミンEカプセル剤は医薬品しかなく、厚生省では食品として認可してもらえませんでした。そこで、やむを得ず農林水産省に認可を求め、調味用としての販売が認められることになりました。(当時の『ビタポールE』は「調味用」の表示)

当初は、ビタミンE製造において成分濃度を高めることが難しかったのですが、技術開発を重ね98%程度まで高めることが可能となりました。



創業者 石原隆文



1975年 ビタポールE製造販売開始

1971

「備前化成株式会社」を設立

1975

天然ビタミンEの栄養補助食品「ビタポールE」販売

1980

医薬品、天然型ビタミンE剤「Eキャップ・ナチュラル」「ビタラックスE」発売

1982

食品素材「牡蠣エキス」発売

1998

医薬品原体EPA-E98%生産開始

2005

日本健康・栄養食品協会の健康補助食品GMP適合認定取得

2006

英国規格協会・BSIの日本法人からISO9001取得

2018

EPA最終原薬製造事業開始

2022

製剤工場にFSSC22000の認証を取得

2023

機能性食品素材「SACニンニク」がHALAL認証取得

お客様の思いをカタチにし、感動を生み出す。

健康食品づくりをトータルサポート

お客様が描くイメージから商品化までの流れを、お客様と共に築き上げていきます。

商品の差別化提案

健康食品素材の開発・製造から最終製品の製造まで、ご相談を承ります。

素材提案

独自の研究により、様々な効果を持つ健康食品素材や、オメガ3系脂肪酸の医薬原料、試薬も取り扱っております。

一貫品質管理

基原材料、原料入庫から最終製品に至るまで、すべての工程について品質・安全性の厳重な管理を行います。

・ 備前化成の3つの事業

医薬品(原薬)

世界トップクラスの高純度化技術を用いた原薬EPA

1970年代、独自技術によりビタミンEの高純度化に成功。その製造で培った油脂の精製技術を応用し、1990年代にはEPAを選択的に濃縮する工程・設備を構築しました。



機能的食品素材

機能的食品素材の開発とエビデンスの構築に注力しています。

植物や農作物、水産物などの基原材料の持つ有効性を探求し、機能的を持つ食品素材を作り出すことを目的とし、日々研究、調査に取り組んでいます。

SACニンニク、ブルーベリー葉エキス末、UKOGIN、カオパン茶エキス末、EPA等



健康食品OEM

製品コンセプトに合った味付けや処方設計など適切な商品化をご提供いたします。

お客様のご希望やコンセプトに沿った製品をご提供するため、日々製剤技術の開発、製品のご提案に取り組んでいます。

製剤製造
(加工剤型)
・錠剤
・顆粒
・ハードカプセル



充填・包装
・ビン / ポリ容器
・アルミチャック袋
・スティック分包
・3方シール分包



Research and Development 研究開発

備前化成と共に、新たな価値作りを。

備前化成ならではの技術と最新設備で、医薬品や機能性食品素材、健康食品に新たな価値を創造し、お客様の「ものづくり」を支える、良きパートナーになります。

高濃度・高純度の
オメガ3系脂肪酸づくり
を実現しています。

油脂開発・・・原薬の開発
オメガ3系脂肪酸類の開発

お客様の
ご要望に合わせて、
柔軟にお応えします。

素材開発・・・新規素材の開発
製剤開発・・・独自製剤技術の構築
フードサイエンス・・・機能性研究

粉末

顆粒

錠剤

試作機



噴霧乾燥機



流動層造粒機



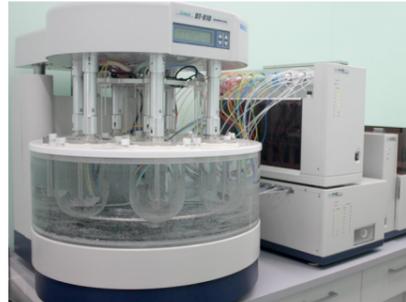
打錠機

分析機



LC-MS

有効成分を選択的高感度分析することができます。



溶出試験機

体の中での錠剤やカプセル剤の溶け方を調べます。

培養装置



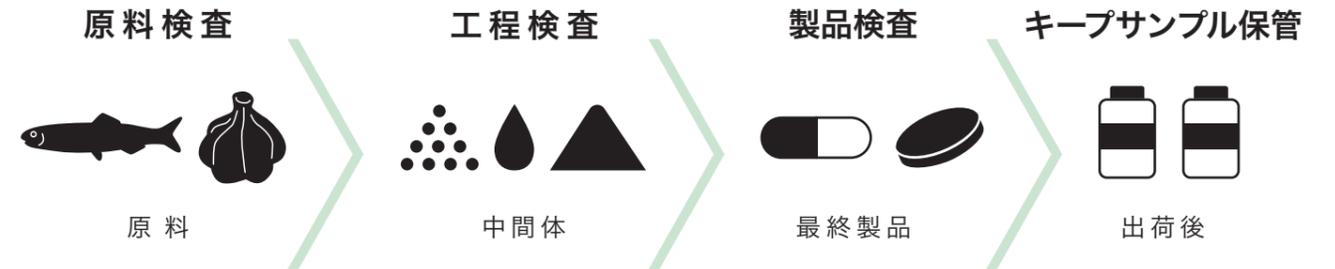
微生物培養装置

微生物や酵素反応を用いて新しい機能性素材を開発します。

Quality Management 品質管理

厳しい検査基準と万全のチェック体制で、「安心・安全」をお届け。

基原材料、原料入庫から各製造工程、最終製品から出荷に至るまでのすべての工程について、品質・安全性の厳重な管理を行っています。



フードディフェンス

指静脈認証による入室管理システムや監視カメラの導入など、フードディフェンスの強化にも取り組んでいます。



異物混入防止対策

入室時の更衣やエアシャワー、粘着ローラーがけなど製造ラインへの異物混入防止対策を実施しています。また製造ラインには金属探知機を設置しています。

取得認証

| | | |
|-----------|---------------------------------------------------------------------|--|
| 健康食品GMP | 2005年11月9日付で、公益財団法人日本健康・栄養食品協会の健康補助食品GMP適合認定を取得しました。 | |
| ISO9001 | 2006年7月18日付で、英国規格協会・BSIの日本法人から、品質マネジメントシステムが有効に運用されていると認定されました。 | |
| FSSC22000 | 製剤工場に2022年1月24日付で英国規格協会・BSIの日本法人から食品安全マネジメントシステムFSSC22000認証を取得しました。 | |
| EU-HACCP | 2011年3月1日付で、厚生労働省の対EU輸出水産食品取扱施設認定を取得しました。 | |
| FDA原薬GMP | 米国食品医薬品局(FDA)の原薬GMP査察(原薬中間体として)をクリアしています。 | |

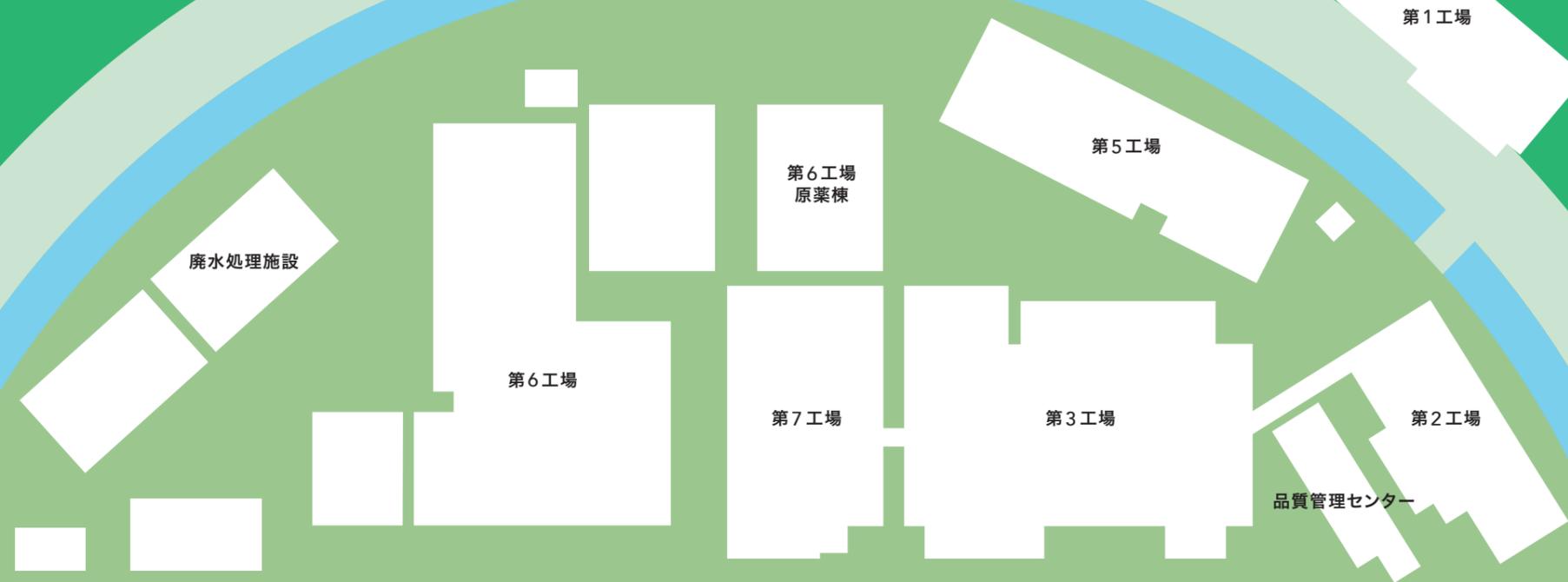
業許可

| | |
|-------------|------------|
| 第2種医薬品製造販売業 | 33A2X00012 |
| 医薬部外品製造販売業 | 33D0X00008 |
| 化粧品製造販売業 | 33C0X00020 |
| 医薬品製造業 | 33AZ000069 |
| 医薬部外品製造業 | 33DZ006016 |
| 化粧品製造業 | 33CZ009024 |
| 食用油脂製造業 | |
| 添加物製造業 | |
| 菓子製造業 | |
| 乳製品製造業 | |

加盟団体

- 公益財団法人日本健康・栄養食品協会
- 岡山県薬業協会
- 関西医薬品協会
- 一般社団法人日本栄養評議会
- EPA・DHA協議会
- おかやまバイオアクティブ研究会
- GOED (GLOBAL ORGANIZATION FOR EPA AND DHA OMEGA-3S)
- SAC研究会
- L8020協議会

本社事務所 /
イノベーションセンター



時代と共に成長を続ける、備前化成の多彩な施設群。

本社事務所/イノベーションセンター



1階「イノベーションセンター」は研究開発、品質管理部門のエリアとして高度な研究・分析を行います。2階には営業や品質保証など事務方を集結して開発及び品質管理の拠点としています。

第1工場



エキス素材、高度不飽和脂肪酸などを製造する工場です。製造に用いられる分子蒸留機や各種反応釜、冷凍晶析装置などを備えています。

第2工場



部門拡張のため、1983年に建設された第2工場。その後も随時、増設を行ってきました。主に健康食品分野の製品を製造しています。

第3工場



噴霧造粒機、全自動コーティング機、ポーレコンテナーミキサー、ボトル充填ラインなど、常に最先端設備を導入し、時代のニーズを満たしています。主に健康食品分野の製品を製造しています。

第5工場



天然動植物抽出エキスを製造する各種装置及び滅菌設備などを設置。各種エキスを粉体にするスプレードライヤーなども備えた工場です。

第6工場



原薬EPA中間体の製造・精製を行う第6工場。抽出装置や蒸留装置も高規格・高効率で、高純度製品の製造が可能です。

第6工場原薬棟



原薬EPAの製造・品質管理・研究開発を行う施設です。原料の調達から原薬として出荷するまで、GMPに適合した製造管理・品質管理を行います。

第7工場



主に健康食品分野の製造を行います。



BIZEN INFORMATION BOOK



備前化成株式会社

BIZEN CHEMICAL CO., LTD.

本社・工場
東京支社

709-0716 岡山県赤磐市徳富 363 TEL 086 995 3311 FAX 086 995 3131

103-0023 東京都中央区日本橋本町 2-6-1 TEL 03 5643 1055 FAX 03 5643 1056